

新興市場銘柄

1. 評価対象企業（30 社）

ティーケーピー、GA Technologies（再評価）、PKSHA Technology（注）、GMO フィナンシャルゲート（新規）、Sun Asterisk（新規）、ブレイド（新規）、ヤプリ（新規）、ENECHAGE（新規）、ココナラ（新規）、i-Plug（新規）、ビジョナル（新規）、スマレジ、カオナビ、ミンカブ・ジ・インフォノイド（新規）、Chatwork、HENNGE、BASE、フリー、マクアケ、JTOWER、AI inside（新規）、ビザスク（新規）、そーせいグループ（再評価）、サンバイオ、ヘリオス、弁護士ドットコム、QD レーザ（新規）、Macbee Planet（新規）、ウェルスナビ（新規）、BuySell Technologies（新規）

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）グロース市場からスタンダード市場へ市場変更した（2022 年 9 月）。

2. 対象企業の選定方法および評価方法

（1）対象企業の選定方法

本年度における新興市場銘柄の評価対象企業は、グロース、ネクスト、Q-Board およびアンビシャスの 4 つの市場に上場している企業（注 1）の中で、時価総額が上位（注 2）であって、かつ、その企業を調査対象としているアナリストの数（注 3）が一定数以上の 30 社（昨年度 28 社）とした。なお、30 社のうち、継続評価企業が 13 社、新規評価企業が 15 社、再評価企業（2 年以上前に評価対象としたことがある企業）が 2 社となっている。

（注 1） アナリストへのスコアシート発送時点（本年 5 月下旬）で、上場後 1 年未満の企業および上記 4 市場以外への移行を公表している企業は除外した。

（注 2） 昨年 11 月末時点の時価総額を基準とした。

（注 3） 本年 1 月に当協会が証券会社等に新興市場銘柄をカバーするアナリスト数を照会して得られた数。

（2）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	15
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	5
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 152 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（3）評価実施アナリストは 56 名（所属先 29 社）である。（153 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は151頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。また、新規評価（15社）および再評価（2社）の企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.7 点（昨年度 67.0 点）、総合評価点の標準偏差は 6.4 点（昨年度 6.7 点）であった。
- ② 総合評価点については、70 点台が 10 社（昨年度同）、60 点台が 16 社（昨年度 14 社）、50 点台が 4 社（昨年度 3 社）となり、80 点台以上（昨年度なし）および 40 点台以下（昨年度 1 社）はなかった。
- ③ 5 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 73%（昨年度 71%）、説明会等が 68%（昨年度 65%）、フェア・ディスクロージャーが 72%（昨年度 74%）、ESG 関連が 58%（昨年度 62%）、自主的情報開示が 57%（昨年度 54%）となった。
- ④ 全 13 項目の平均得点率を見ると、最高で 75%（2 項目）、最低で 57%（3 項目）となった。最低となった 3 項目（ESG 関連の 2 項目（(a) (b)）、自主的情報開示の項目(c)）は次のとおりであり、他に 50%台の項目はなかった。

(a) 「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか」（平均得点率 57%）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：30%台 1 社・40%台 6 社・50%台 10 社・60%台 10 社・70%台 3 社）

(b) 「非財務情報の開示に取り組んでいますか」（平均得点率 57%）（得点率：40%台 4 社・50%台 15 社・60%台 9 社・70%台 2 社）

(c) 「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか」（平均得点率 57%）（得点率：40%台 4 社・50%台 12 社・60%台 10 社・70%台 4 社）

- ⑤ ESG 関連の 3 項目の平均得点率を見ると、2 項目（上記④(a) (b)）が 50%台、1 項目（次の項目）が 60%台と、いずれの項目も低水準となった。

・ 「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか」（平均得点率 60%）（得点率：40%台 2 社・50%台 12 社・60%台 12 社・70%台 4 社）

(2) 優良企業（上位 3 企業）の評価概要

第 1 位 BuySell Technologies（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 79.9 点）

- ① 同社（事業内容：着物・切手・ブランド品等の高価格帯商材を中心とした買取・販売を提供する総合リユースサービス。市場：グロース（2019 年 12 月マザーズ上場）、新規評価企業）は、説明会等（得点率〈以下省略〉85%）、ESG 関連（73%）、自主的情報開示（76%）が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（83%）、フェア・ディスクロージャーが第 9 位（76%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」が、最も高い評価となった。これに関連して、経営トップが積極的に IR 対応していること、KPI を設定した上で投資家との目線を共有していることを評価する声が寄せられた。また、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が、同得点第 3 位となり、「フェア・ディスクロージャー・ルール of the 趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第 1 位と僅差の第 2 位となった。
- ③ 説明会等においては、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が、最も高い評価となった。「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」も、同得点第 1 位となり、「収益および財務分

析に必要なデータが十分に記載されていること」(同得点第3位)も、評価された。これらの結果、この分野において第1位となった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」は、同得点第6位となった。「ウェブサイトを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ)を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」は、平均得点率をやや上回った。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」および「非財務情報の開示に取り組んでいること」が共に、第2位となり、「経営機構(社外取締役の独立性等)、経営資源および内部統制について十分に説明していること」も、同得点第2位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示(工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など)に取り組んでいること」は、最も高い評価となった。

**第2位 スマレジ(ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 79.6 点〔昨年度比+8.8 点〕、
昨年度第8位)**

- ① 同社(事業内容:販売データの収集と活用を行う「販売データプラットフォーム運営事業」を展開。市場:グロース(2019年2月マザーズ上場)、継続評価企業)は、**経営陣の IR 姿勢等**(83%)、**フェア・ディスクロージャー**(84%)が第1位、**説明会等**が第2位(81%)、**自主的情報開示**が同得点第2位(72%)、**ESG 関連**が第3位(70%)となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善し、総合評価点は大幅に上昇した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」および「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が共に、最も高い評価となった。また、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が、同得点第1位となった。「経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」も平均得点率を上回った。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、毎四半期において経営トップが IR 対応を行っていること、決算説明資料の内容に投資家の要望を反映させていることを評価する声が寄せられた。また、IR 部門は経営陣との距離が近く、経営陣の考えを代弁できているとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」が、最も高い評価となった。「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていること」も、同得点第1位となった。これらに関連して、実績について図表などを用い、定量・定性両面でわかりやすく説明している、決算説明資料の内容が年々充実しているなどの声が寄せられ、また、月次開示、店舗数などの情報、販管費の内訳などの詳細な開示を評価する声もあった。なお、業績計画における利益増減の記載について一層工夫を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ)を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」が、最も高い評価となった。これに関連して、説明会の動画配信および質疑応答等の書き起こし掲載を評価する声が寄せられた。また、「投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」も、同得点第1位となった。これに関連して、メール配信の活用を評価する声があった。これらの結果、この分野において第1位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」および「非財務情報の開示に取り組んでいること」が共に、第3位となった。「経営機構(社外取締役の独立性等)、経営資源および内部統制について十分に説明していること」も、平均得点率を上回った。これらの結果、この分野において第3位となった。なお、株主還元策の一層の開示や、説明会資料での経営体制の記載の充実を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示(工場・施設見学会の実施、主要事業に

関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第2位となった。これに関連して、統合報告書作成の取組みに期待する声や、マンスリーレポートの配信を評価する声があった。

第3位 i-plug（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 77.5 点）

- ① 同社（事業内容：新卒向けダイレクトリクルーティングサービスである「OfferBox（オファーボックス）」シリーズを運営。市場：グロース（2021年3月マザーズ上場）、新規評価企業）は、ESG 関連が第2位（72%）、自主的情報開示が同得点第2位（72%）、説明会等が第3位（80%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位（77%）、経営陣のIR 姿勢等が第6位（80%）となった。
- ② 経営陣のIR 姿勢等においては、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が、同得点第3位となった。これに関連して、投資拡大やその後の再成長について十分に説明している点を評価する声があった。また、「経営者のIR 姿勢」、「IR 部門の機能」および「フェア・ディスクロージャー・ルール」の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」は、いずれも80%以上の得点率となった。これらに関連して、CEO、CFOなどが主体的にIR 対応をしていることを評価する声が寄せられた。また、開示資料等を定期的にアップデートしているとの声もあった。なお、IR 部門の機能について一層の充実を期待する声があった。
- ③ 説明会等においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」が第3位となった。「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」も、同得点第3位となった。また、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」も、平均得点率を大きく上回った。これらの結果、この分野において第3位となった。これらに関連して、中期経営計画を提示するなど投資家の理解を深めようとしていること、中期経営計画の前提や事業別の損益状況を詳細に開示していることを評価する声があった。なお、投資項目について一層の開示を望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が第4位となった。一方、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」は、平均得点率と同程度にとどまった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」が、最も高い評価となり、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明していること」も、同得点第2位となった。また、「非財務情報の開示に取り組んでいること」が、同得点第4位となり、これらの結果、この分野においてトップと僅差の第2位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第2位となった。

上記のBuySell Technologies、スマレジ、i-plugの努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら3社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として選定した。

以 上

2022年度 ディスクロージャ―評価比較総括表（新興市場銘柄）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	7685 BuySell Technologies	79.9	29.0	2	21.2	1	11.4	9	14.5	1	3.8	1	
2	4431 スマレジ	79.6	29.2	1	20.3	2	12.6	1	13.9	3	3.6	2	8
3	4177 i-plug	77.5	28.0	6	19.9	3	11.6	4	14.4	2	3.6	2	
4	3479 ティーケーピー	74.7	28.5	4	19.0	5	11.5	6	12.7	7	3.0	12	9
5	4169 ENECHANGE	74.1	27.4	8	18.2	9	11.5	6	13.6	4	3.4	5	
6	4051 GMOフィナンシャルゲート	73.2	27.7	7	19.6	4	11.5	6	11.5	16	2.9	15	
7	4436 ミンカブ・ジ・インフオノイド	72.1	26.2	12	18.0	10	11.7	2	13.0	6	3.2	7	
8	7095 Macbee Planet	71.5	26.7	10	18.6	8	10.3	23	12.6	8	3.3	6	
9	4435 カオナビ	70.9	25.7	13	18.9	6	11.2	10	12.5	9	2.6	19	16
10	4168 ヤプリー	70.1	28.5	4	18.0	10	9.8	25	10.8	23	3.0	12	
11	4053 Sun Asterisk	69.5	26.6	11	16.6	20	10.0	24	13.3	5	3.0	12	
12	6027 弁護士ドットコム	69.3	26.9	9	16.9	18	11.1	13	11.8	13	2.6	19	7
13	4485 JTOWER	69.2	25.2	16	18.8	7	10.5	19	11.5	16	3.2	7	14
13	4565 そーせいバグループ	69.2	28.7	3	14.9	24	11.7	2	11.0	19	2.9	15	
15	4194 ビジョナル	67.6	25.2	16	17.3	14	10.6	18	12.0	12	2.5	24	
15	4490 ビザスク	67.6	25.5	14	17.0	17	10.5	19	12.4	10	2.2	27	
17	4478 フリー	67.3	25.2	16	17.5	13	11.2	10	10.9	22	2.5	24	10
18	4477 BASE	66.8	24.6	20	16.8	19	11.1	13	11.6	15	2.7	17	13
18	7342 ウェルスナビ	66.8	25.5	14	17.1	15	10.4	22	11.2	18	2.6	19	
20	4488 AI inside	66.2	25.0	19	16.2	21	11.2	10	10.2	24	3.6	2	
21	4475 HENNGE	65.8	24.0	24	17.1	15	11.0	15	11.0	19	2.7	17	1
22	4176 ココナラ	65.7	24.1	23	17.6	12	11.0	15	11.0	19	2.0	29	
23	3491 GA technologies	65.3	23.9	25	15.7	22	10.5	19	12.1	11	3.1	9	
24	4165 プレイド	62.9	24.4	21	14.7	25	11.6	4	10.0	25	2.2	27	
25	6613 QDレーザ	61.3	24.3	22	15.4	23	9.0	29	10.0	25	2.6	19	
26	4479 マクアケ	61.1	23.0	27	14.3	26	10.7	17	10.0	25	3.1	9	19
27	4448 Chatwork	59.2	22.2	28	14.0	27	8.6	30	11.8	13	2.6	19	11
28	4593 ヘリオス	58.4	23.7	26	12.9	29	9.5	27	9.2	28	3.1	9	26
29	3993 PKSHA Technology	56.1	21.5	29	13.8	28	9.8	25	9.0	30	2.0	29	24
30	4592 サンバイオ	53.2	19.7	30	12.5	30	9.3	28	9.2	28	2.5	24	28
	評価対象企業評価平均点	67.73	25.54		16.96		10.74		11.62		2.87		

2022年度評価項目および配点（新興市場銘柄）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。 [1点～15点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。 [1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)決算説明会、インタビューにおける開示	
①今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。 [1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。 [1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
4. ESGに関連する情報の開示（20点）	配点
(1)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。 [1点～8点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)経営機構、経営資源および内部統制について	
・経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。 [1点～7点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	7
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報の開示に取り組んでいますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・ウェブサイトでの開示や決算説明会以外での開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか。（前年7月から本年6月までの間） [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5

新興市場銘柄専門部会委員

部 会 長	古 島 次郎	大和証券
部会長代理	渡 辺 真理子	UBS 証券
	新 谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	岩 本 誠一郎	アセットマネジメント One
	大 寺 貴仁	野村證券
	高 祥太郎	日興アセットマネジメント
	中 川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
	納 博司	いちよし経済研究所
	東 田 暁	野村アセットマネジメント

評価実施アナリスト（56名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	清水 康之	QUICK
新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント	関根 哲	大和証券
姉川 俊幸	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	高 祥太郎	日興アセットマネジメント
新井 勝己	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	宝田 晋介	ニッセイ アセット マネジメント
荒木 正人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	田村 真一	極東証券経済研究所
飯塚 恭平	第一生命保険	千葉 馨	JP モルガン証券
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	都築 伸弥	みずほ証券
石原 太郎	大和証券	寺島 正	大和アセットマネジメント
伊藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	得永 一樹	大和証券
入沢 健	立花証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
岩崎 利昭	水戸証券	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
岩本 誠一郎	アセットマネジメント One	中島 智也	丸三証券
上野 有輝	第一生命保険	納 博司	いちよし経済研究所
大浦 裕太	第一生命保険	畑田 真	SBI 証券
大野 剛	丸三証券	原田 大輔	QUICK
大場 剛平	野村アセットマネジメント	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大牧 実慶	立花証券	東田 暁	野村アセットマネジメント
小澤 公樹	SBI 証券	福田 真望	丸三証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	藤根 靖晃	ティー・アイ・ダブリュ
城戸 謙治	アセットマネジメント One	宝水 裕圭里	東海東京調査センター
古島 次郎	大和証券	松浦 勇佑	丸三証券
古西 正幸	第一生命保険	松原 弘幸	野村証券
小林 亮	みずほ証券	三浦 勇介	大和証券
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	村岡 真一郎	モルガン・スタンレー MUFG 証券
佐藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント	山口 秀丸	シティグループ 証券
佐野 滉介	第一生命保険	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
佐原 孝輔	丸三証券	山本 真以人	ニッセイ アセット マネジメント
鮫島 豊喜	SBI 証券	渡辺 真理子	UBS 証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。